



令和7年1月31日（金）

今年度の教育活動を振り返って

副校長 加藤 勇祐

昨年12月に学校の教育活動についてのアンケートを取らせていただきました。今年度は回答数417名（児童数671名）約62%（昨年度77%）でした。ご協力いただき、ありがとうございました。

令和6年度 学校評価アンケート結果		よく 出来ている	大体 出来ている	あまり 出来ていない	出来て いない	わから ない
1	【確かな学力の向上】 江戸川っ子 study week！、ドリルパークの取組、一人1台タブレット、デジタル教科書等のICT機器を活用した授業、放課後補習教室を通して、児童の学力向上に取り組んでいる。	27	56	11	3	4
2	【読書科の更なる充実】 学校図書館の環境整備・活用を推進し、読書や調べ学習の充実を図っている。	27	50	13	1	8
3	【外国語教育の推進】（3年以上） 外国語専科教員が中心となり、デジタル教材やALTを活用して工夫した授業を展開している。	12	29	13	2	44
4	【体力の向上】 体育の授業や運動遊び（元気ツズタイム）、風の子運動（なわとび・持久走）、春江準備運動、なわとびチャレンジウィークを通して、運動意欲や体力向上を図っている。	36	54	7	0	3
5	【共生社会の実現に向けた教育の推進①】 エンカレッジルームや教育相談室、スクールカウンセラーの活用、特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習を通して、個に応じた指導支援を行うとともに理解教育を推進している。	23	47	9	1	20
6	【共生社会の実現に向けた教育の推進②】 たて割り班活動（異年齢交流）の年間を通じた活動を通して、豊かな心の育成につないでいる。	43	47	5	1	4
7	【不登校・いじめ】 いじめ防止授業、児童アンケート、Q-Uテストの実施やスクールカウンセラー等の活用を通して、いじめや不登校の未然防止に努めている。	18	47	14	4	18
8	【開かれた学校の実現】 学校ホームページを活用し、教育活動の様子等を配信している。	24	51	17	2	7
9	【開かれた学校の実現】 年3回の学校評議員会、教育活動に対するアンケートを実施し、分析・改善を行う。学校ホームページへの公開、学校公開を実施している。	23	58	8	1	10

（％）

＜考察と次年度に向けて＞

アンケート項目については、昨年度と比較し【外国語教育の推進】を除く8項目において、肯定的ご意見の平均値が上がっていた。回答数については前年度より15%下がった。今後はより多くの回答が得られるよう工夫していく。

【確かな学力について】

肯定的評価は83%であった。今年度はベーシックドリル診断テストの正答率も上がり、一定の成果が見られたが、その中でも、タブレットを活用した学習について様々なご意見をいただいた。肯定的な意見としては、「家庭で子供が意欲的に取り組んでいた」「ドリルパークは積み重ねができ、学力の向上・定着に役立っている」等があったが、その一方で「結局ドリル以外のYouTube等に使ってしまい、意義を感じない・家庭での指導が負担である」「タブレット活用によって書く機会がより減っている」「宿題は紙媒体でドリルやノートに書くことが大切」等の意見が多くあがっていた。

【読書科の充実】

肯定的評価は 77%であった。調べ学習等でも本よりもタブレットを活用する機会が増えたことについて、読むことや書くことの必要性についてご意見をいただいた。書籍やタブレットについては調べ学習のツールとして、それぞれの良さがあるため適宜活用していく。また朝読書や読書科の時間等、本に触れる機会を設け、読書活動の充実を図るとともに、読書の楽しさを感じることができるよう指導していく。今年度も学校応援団の方々より、読書支援活動についてご協力いただいた。ありがとうございました。

【外国語教育の推進】

肯定的評価は 41%であった「ふとしたときに英文や単語が出てくる」等、ご家庭で学習の成果が見られたという声もあったが、「分からない」という回答が 45%であった。学校公開等で参観していただけるように計画し、少しでも様子を知っていただけるようにする。（※1・2 年の保護者の方々につきましては、この項目について入力しないと送信ができなかったため、「分からない」と回答した方もおられたようです。来年度は改善していきます。すみませんでした。）また今年度は、年度途中に外国語担当教員が変わる等、ご心配やご不安を与えて、申し訳ありませんでした。

【体力の向上】

肯定的な評価は 90%であった。「風の子運動」における長縄やかけっこ・持久走への取組や体育学習時に行う「春江体操」等、本校の特色ある教育活動は今年度も継続して行った。また各学期に江戸川っ子なわ跳びウイークで短縄を行い、運動の機会を設けた。体力テストにおいては、ソフトボール投げ等、昨年度平均値が低かった種目に対して、事前に練習を行う等した結果、昨年度の数値より向上が見られたが、総合的には課題が残る種目も多い。外遊びも推奨し、体育科の指導と合わせて運動習慣の定着を目指す。

【共生社会の実現に向けた教育の推進】

肯定的評価は①について 70%、②について 90%であった。課題としては、「エンカレッジルームや教育相談室、スクールカウンセラーの活用について情報が少ない」「エンカレッジルームが活用しにくい」等のご意見が見られた。教室での学習に困難さがある児童に対し、別室での学習等も行っており、エンカレッジルームや教育相談室の他に、個別教室等の学習環境の充実を図る。また、エンカレッジルーム、教育相談室、スクールカウンセラーの活用については、スクールカウンセラー便りやホームページ等で情報を提供していく。一方で、本校の特色ある教育活動の 1 つでもある「たてわり班活動」においては高い評価をいただいた。たてわり班遊びやたてわり集会活動等での上級生と下級生の関わりは豊かな心の育成につながっている。また、通常学級と特別支援学級との交流についても学年とのスポーツ交流や、通常級での授業交流等行っており、今後もこれらの活動の推進を図る。

【不登校・いじめ】

肯定的評価は 65%であった。今年度も年 2 回の児童アンケートからいじめの実態把握に努め、担任による児童の聞き取りを行い、未然防止や早期対応・解決に努めた。また、主に道徳でいじめ防止授業を全学級で実施するとともに、いじめ・不登校対策委員会を定期的に開催し、情報共有と今後の対応について話し合いを行った。また Q・U テストにおいても、その結果をもとに児童個々の実態を捉え指導に活用しているが、「児童アンケートや Q・U テストの結果等について知る機会がない」等のご意見をいただいたため、個人面談でその結果をお伝えする等、保護者と共有する場を設けていく。また「登校渋りや遅刻が多く、どう対処していいかわからない」という切実なご意見もいただいた。不登校や登校渋り傾向のある児童については、SSW（スクールソーシャルワーカー）や SC（スクールカウンセラー）、教育相談所やサポート教室といった関連機関とも連携し、対応に当たっていく。

【開かれた学校の実現】

肯定的評価は①について 75%、②について 81%であった。ご意見として「ホームページに子供の教育活動が分かる写真等のこまめなアップをお願いしたい」というご意見を多くいただいた。子供たちの様子を知る手立ての 1 つとして、学校ホームページを活用していただいていることがよく分かった。今後は行事だけではなく、日常の様子等もできる限りアップする等、ホームページの充実にも努めていく。また tetoru の活用について、学級閉鎖や不審者情報等の全校への配信や周知徹底を望む声が多かった。不審者情報については、保護者の安心につながるよう日常の連絡の他、不審者情報等も精査して発信していく。

その他にも様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。いただいたご意見は全教職員で共有し、今後の学校経営に向けて検討させていただきます。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。